

令和7年4月
令和6年度 自己評価報告書

優郷の学び舎
世田谷区立弦巻中学校
校長 加藤 ユカ

1. 概要

今年度の学校関係者評価アンケートの回収率は、生徒では約90%（昨年度78%）と一昨年前の90%を超える回収率となった。生徒への実施は、毎年各クラス個別に実施しているが、最後の確認を終えていない生徒もいることで、昨年度は、回収率が低くなってしまったが、改善することができた。しかし、当日欠席した生徒や遅刻した生徒や不登校の生徒についての回答の徹底がむずかしいこともあり、引き続き、生徒の回答率が100%近づけるように努力していく。

また、保護者による回答も、昨年度の回収率は74.4%を2ポイント上昇し、76.4%となった。さらに、毎年工夫改善しながら90%の回答率に近づくように努力していきたい。

今年度も昨年度同様、保護者から肯定的な回答が多い設問が「学校行事」「情報がよく提供されている」の項目だった。また、生徒の肯定的な回答が多い設問では「授業について」「学校行事」「先生の指導」について肯定的な回答が90%を超えていた。「課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている」との回答をした生徒が昨年度88%から94%と上昇した。さらに、「考えたことを話し合ったり、発表し会ったりする機会がある」の項目では、肯定的な回答が95%ととても高く、「主体的な対話的で深い学びの授業」が実践されていると言える。地域の肯定的な回答が多い項目では昨年度と変わらず「学校の重点目標が明確」「情報の提供」「地域連携」で、高い評価を得ているが、その他に、「学校の安全性」「生活指導」についても、90%以上の高い評価を得ることができた。

保護者や地域から肯定的な回答が特に多かった設問が今年度もさらに高くなっている要因として、昨年度に引き続き、学校だよりは月1回の発行だが、学校のホームページをほぼ毎日更新し、保護者へ情報発信を行ってきたことが考えられる。宿泊行事等をはじめ行事の情報発信は充実させている。また、学年だよりも各学年定期的に発行し、子どもたちの学校生活の様子を丁寧に保護者に伝えている。インターネットが普及し、誰もが気軽にスマートフォンを使って学校のHPを見ることができる現代において、学校HPを活用した情報発信は今後も必要不可欠な事項と考えられる。今年度より、HPがスマートフォンで気軽に見られるように変わったことで、アクセス数も増えている。

生徒から肯定的な回答が特に多かった授業に関する設問については、昨年度以上に、教員一人ひとりが、タブレット等ICTを活用した「主体的・対話的・深い学び」の授業を意識しながら取り組んでいる成果であると考える。

2. 学校関係者評価アンケートに関する自己評価報告

(1) 学習指導について（保護者・生徒）

「先生は、課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている（肯定的回答：94.3%）」と高く、それ以外の回答も8割以上と高い回答となっている。「黒板の書き方やプリントなど工夫している」が80%であるが、「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」は88.7%と学習指導に関する肯定的な評価は、相対的に高くなっている。教員の指導方法の改善結果が評価として表れている。研修を定期的に行ったことで教員も基本的なタブレット端末の使い方を習得したので、さらにさらにこの状況を継続していくよう、教

員一人一人のICTを有効に活用した授業実践の力を高め、誰もがいつでもどこでも、当たり前に使えるように実践していくことを心がけていく。

しかしICTの活用については、タブレットを使うことが目的ではなく、タブレットを使って何をするかが大切であり、教員一人ひとりが考えていくことはもちろん、弦巻中学校としてどのように取り組んでいくか、さらに、校内で研修をさらに継続していく必要がある。

また、それに比べて、保護者の肯定的な回答はあまり上がらず、保護者への周知について、さらに工夫していく必要がある。

(2) 生活指導について（保護者・生徒）

生活指導についての生徒の肯定的な回答は高く、すべて80%以上である。「先生は、学校のルールを生徒に考えさせて指導している（肯定的回答：75%→83.8%）」が昨年度に比べて高くなっている。「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。」の肯定的な回答が86.3%、「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」が85.6%と肯定的な回答が多い。本校では、生活指導提要の改定に基づいて、「生徒に考えさせる生活指導」を行ってきている。また、生活指導主任を中心として、弦巻中学校の生活指導について共通理解を深め、組織的な対応を行っている。さらに、各学期に一回実施しているカジュアルウィークの取組や日頃の生徒会活動、行事での取り組みの際、教師があれこれ指示を出すのではなく、生徒の自主性に任せた指導が行われてきた。生活指導についてのどの項目でも、生徒の肯定的な回答が高いのは、教員が生徒一人ひとりに寄り添いながら、考える生活指導が定着している結果であると考えられる。今後も学校の生活のルールについて生徒一人一人が主体的に考えられる機会を作っていく。

(3) 学校行事（運動会・学芸会、宿泊行事など）について（保護者・生徒）

生徒からは「学校行事は楽しい（肯定的回答：92%→89.9%）」、「学校行事は、達成感がある（肯定的回答：88%→84.9%）」という回答で、どちらも80%を超えており、昨年度よりも若干肯定的な回答が若干下がっているがどちらも80%を超えていている。

「先生は、生徒の意欲を大切にしている。」項目では、生徒の肯定的な回答が84.9%、保護者が78.4%となっている。保護者の「わからない」の回答が1割あるので、生徒・保護者ともに、肯定的な回答が継続されるように、直接学校で活躍する生徒を見る能够性を増やしていきたいと考える。

(4) キャリア教育について（保護者・生徒）

今年度も「キャリア教育」に関する3つの質問に対する肯定的な回答の割合は、学年が上がるにつれ増加している。これは、3年生の場合は「具体的な進路指導の場面が多くなる」ことが理由の1つと考えられる。しかし1年生で行っている「職業調べ」や、2年生で行っている「職場インタビュー」も「キャリア教育」であり、また、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つの力が、「キャリア教育」を通して身に付けてもらいたい力であることから、今後も「キャリアパスポート」を活用しながら、機会があるごとに「キャリア教育」の本当の目標を生徒はもちろん保護者にも、説明し理解していく必要を感じる。

また、生徒のキャリアパスポートの活用については進んできたが、その意義や役割についての理解には、まだ課題があると思う。キャリア教育の充実のためにも、「キャリアパスポート」の活用について、意義や役割について、さらに高めていく必要がある。

今後も、学校だよりでその意義について掲載したり、学期ごとに保護者に返却している時の工夫・改善に取り組んでいきたい。来年度は、1学期の通知表の所見欄を「キャリアパスポートの先生より」に記載して、面談で保護者・生徒に伝え、キャリアパスポートの有効活用に努めていく。

(5) 教職員について（保護者・生徒）

教職員については、保護者を対象とした「本校は、丁寧に指導している（肯定的回答：75%→81.7%）」と昨年度より5ポイントアップしている。「子どもや保護者が相談しやすい（肯定的回答：72%）」はあまり変化がなかった。生徒を対象とした「先生たちは、生徒に丁寧に指導している（肯定的回答：87%→89.9%）」は高いが、「生徒が相談しやすい（肯定的回答：62%→65.9%）」は昨年度より4ポイント上昇したものの依然として低い。本校は、フレンドリーな教員も多く、普段の様子を見ると、先生も生徒もよく交流している。「先生は相談しにくい」というよりも、生徒自身が教員に相談するよりも友人や家族に相談する傾向が強いという傾向も見られる。一人ひとりの教員が、さらに「相談しやすい雰囲気づくり」を心掛けていくことが今後は求められる。

(6) (学校生活) 全般について（保護者・生徒）

「楽しい」という項目については、毎年85%以上と肯定的な回答が多い。「達成感」については「楽しい」に比べると肯定的な回答が若干低くなる傾向にある。また、「学び舎の小学校との交流」に関する設問については、ボランティア以外に、実際にはほとんど交流がないので、肯定的な回答の割合は今年も低かった。緑陰子供会や子供大会でのボランティア活動、落ち葉掃き、子ども駅伝での取り組みなど、限られた生徒は、交流があるので、引き続き、可能な交流ができるように、模索していきたい。

(7) 部活動について（保護者・生徒）

部活動に関してはどの設問も、肯定的な回答の割合が高い。部活動も世田谷区の方針に則り、地域移行・地域連携が進められていくために、生徒・保護者のニーズも考えながら、部活動のあり方についてもさらに検討していく必要がある。

(8) 学校からの情報提供について（保護者）

「学び舎の小学校について情報提供されている」に関する肯定的な回答の割合が昨年度の3割から4割と少し上昇したものの、昨年度と変わらず低いものであった。

一方、「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」に関する肯定的な回答の割合は80%以上と非常に高いものであり、学校側の取組の成果が表れている。「1. 概要」でも書いたが、インターネットが普及し、誰もが気軽にスマートフォンを使って学校のHPを見ることができる現代において、学校HPの充実は今後も必要不可欠な事項と考えられる。

また、中学校で小学校の情報が本当に必要かと疑問もある。情報も精査しながら必要な情報を発信していくことが大事だと考える。また、学び舎の小学校のHPに中学校のリンクが張り付いているので、そこから必要な情報を得ることもできるので、周知していきたい。

(9) 地域との連携について（保護者）

「地域との連携について」の3つの項目については、「わからない」が依然として3割を超えている。しかし、肯定的な回答の割合も5割を超えている。今後も、地域との交流活動についても、「わからない」が減っていくように、情報提供していく必要があると考える。

(10) 学校の安全性について（保護者・地域）

保護者へのどの設問についても、75%以上と肯定的な回答の割合は高かった。地域への「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」「学校は、安全性を高めようと地域と協力している。」の項目では、85%以上と高い回答だった。「本校は、地域と協力しながら防災教育に積極的に取り組んでいる。」の項目では、肯定的な回答が90%と、弦巻中学校避難所運営訓練などTSAと連携しながら毎年プラッシュアップさせているのが肯定的な回答につながっていると考える。引き続き、保護者のニーズを捉え、具体的にかつ明確な対策を考え、地域と連携した防災対策に力を入れ、安心・安全な学校づくりを推進していく。

(11) 学校運営について（保護者）

「学校運営について地域に情報を提供しているか」の設問について、保護者の「わからない」の回答が4割強となっていた。引き続き、様々な機会を通して、学校の教育方針をアピールしていく。

(12) 弦巻中学校独自項目について（保護者・生徒）

どの設問についても、肯定的な回答の割合は昨年度とあまり変化がなかった。その中でも、ボランティア活動に関する設問では、肯定的な回答の割合が低い。しかし、弦巻中学校の生徒はボランティア活動に積極的に取り組んでいないのかと言えばそうではない。毎年の学年ごと「落ち葉掃きボランティア活動」「プランターづくり」「近隣の小学校へのお手伝いボランティア」など、地域へのボランティア活動にも積極的に取組んでいる。「ボランティア活動している」という意識ではなく、「当たり前のことをしている」という意識で取り組んでいるためと考えられる。

3. 地域全般のアンケート結果について

地域との連携についての項目では、全体としては、肯定的な回答が多かった。が、1つ1つ見していくと、「地域の人や施設を教育活動に活かしている。」は85%、「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。」は、70%となり、最後の「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。」は、60%と、徐々に肯定的な回答の割合が減少している。地域連携の核となる「学校運営委員会」の役割を理解している人が少ないことが分かった。今後も、地域との連携について、「毎月、地域に配布している学校だより」、「学校HP」を充実させ、地域の方々が気軽に来校できるように、地域連携の充実を図っていきたい。さらなる、教育活動の充実につなげていきたいと考える。